

## 1. 評価

- 論文の評価項目を表-1に示します。「新規性」、「有用性」、「信頼性」に重点をおいて評価しています。論文の中で、「新規性」や「有用性」について、分かりやすく十分に記述しておくことが望まれます。
- 論文の体裁が整い完成度が高いだけでなく、研究の対象や手法に新しい特色があるか、新しい成果が盛られているか、コンクリート工学分野において有用かといった点を重視しています。

## 2. 審査の流れ

- 審査の流れを図-1に示します。奇数月の中旬に開催される編集委員会において、投稿論文の査読者（主査（委員）1名と副査2名）を選びます。
- 編集委員会において、主査からの査読報告をもとに、次のような判定を行い、著者へ通知します。

**A0—無条件採択（そのまま掲載する）**

**A1—軽微な修正要求（修正された論文を主査確認後掲載）**

**A2—条件付採択（主査の確認後、判定結果を委員会で審議）**

**B1—再査読（主査の再査読後、委員会審議）**

**B2—再査読（査読者全員の再査読後、委員会審議）**

**C—不採択**

- 不採択理由の例を表-2に示します。不採択理由の多くは、「新しい知見が極めて少ない」というものです。

## 3. 特徴

- 査読：査読が丁寧かつ迅速に行われ、分かりやすい査読意見となるよう心がけています。
- ページ数：論文のページ数は最大14ページまで認められています。
- 読者：これまで刊行された論文集は会員の方に限定して配布していましたが、2012年よりオンラインジャーナルとして発行を開始しました。発行と同時にオープンアクセスとすることにより、土木建築分野を含め、コンクリート工学分野の研究者や技術者により広く読まれるようになりました。
- 体裁：テンプレートやチェックシートが整っています。

表－1 論文の評価項目

1	新規性
2	有用性
3	信頼性
4	具体的評価
a	研究の対象、手法に新しい特色がある
b	示唆的で今後の発展を促す
c	計画、調査、設計、施工等に取り入れる価値がある
d	新しい成果が盛られている
e	現象の解明に貢献している
f	手法の体系化、歴史的考察を行い、問題点を指摘している
g	資料としての総合性があり、工学上有用である
5	完成度
a	論文構成と論旨
b	データ満足度
c	公正度
6	体裁
a	論文全体の体裁
b	文章表現
c	図表の明解さ

表－2 不採択理由の例

1	新しい知見が極めて少ない
2	理論または考えのプロセスに誤りがある。あるいは極めて不十分である
3	計算・データ整理に誤りがある
4	内容が水準以下である
5	論文構成と論旨が不適切である
6	文章や内容(図、表も含む)の表現が悪く、根本的な書き直しを要する
7	商業宣伝に偏しているなど、内容が論文に適さない
8	学術論文として不適切である
9	募集条件に合致しない

著者

委員会

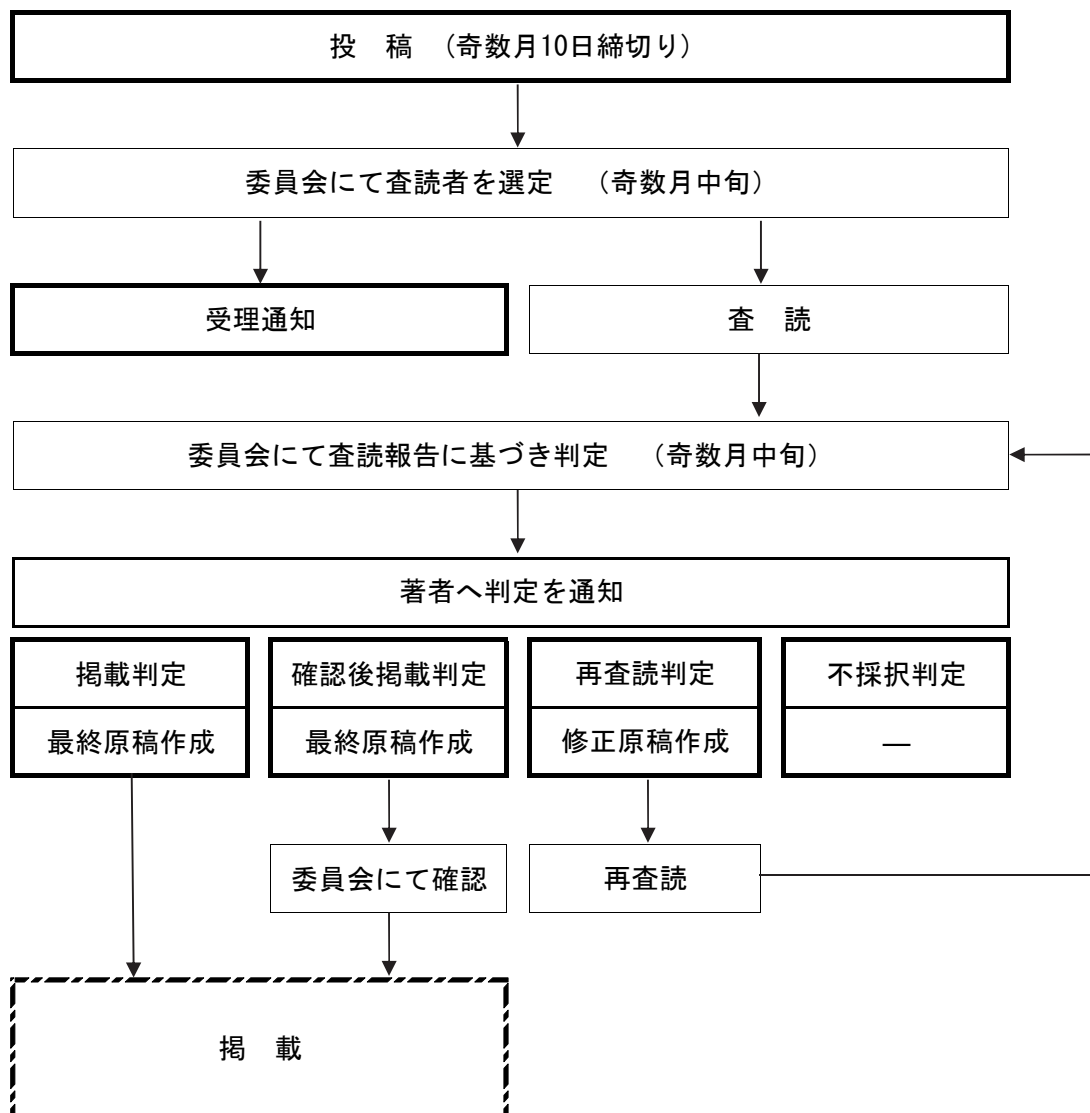


図-1 審査の流れ